

えっ!?
これが
「ふくし」

進め/プロジェクト。日福生たちの夢中と本気が、町を変える。



2019.May.18
11:00



2019.May.18
11:45

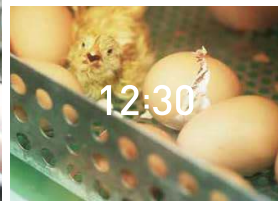


9:30

学生たちは、朝の会のリハーサルやお昼ご飯の支度、参加者の受付など、てきぱちと準備を進めていきました。



10:00



12:30

上：朝の会からスタート、歌と体操で盛り上がりました。
下：午後には、みんなが見守る中ついに卵が孵化!



10:30

生き物に興味津々の子どもたち、自由遊びでは、学生と一緒に元気よくカエルや昆虫を捕まえていました。

自然体験活動

森のようちえん

2019.May.18

親子、学生、地域の人々がともに学び合う、
自然を生かしたユニークな体験活動。



教育・心理学部^(※1)子ども発達学科 保育・幼児教育専修^(※2)の東内ゼミは、子どもたちの自然体験や生活体験に関する研究を専門としたゼミナールです。その東内ゼミの3年生が中心となって運営している「森のようちえん」では、地域の親子を対象に、さまざまな自然体験活動をおこなっています。美浜町の農家 森川さんが経営する「季の野の台所」を拠点に、4月から11月まで年6回にわたって開催します。農家の森川さんや、恵yogarooomの恵さんのご指導の下、学生が先生役となって企画から携わり、野草を使った料理づくりなど自然を生かしたプログラムで、参加者を楽しませています。

5月18日(土)、第2回のメインイベントは、田植え前の水張りした田んぼの中でおこなうヨガ。学生たちは、参加した親子とコミュニケーションをとり、ヨガの先生しながらポーズをレクチャーしました。最初は土の感触に驚いていた子どもたちにも次第に笑顔があふれ、ヨガの後は泥だらけになって田んぼを駆け回

ていました。

また、この日は21日前に孵化器に入れた卵が、いよいよ孵化する瞬間を迎えました。子どもたちは真剣な表情で卵を見つめ、ヒナが出てくると「生まれた!」と嬉しそう声を上げていました。今後、鶏を育てて、いただくまでの流れを通して、子どもも学生も命の大切さについて学んでいきます。

東内ゼミ3年の鈴木さんは、「自然の中で子どもたちと接していると、思いがけない発見がたくさんあります。特に自由遊びの時間には、子どもたちが虫取りをしたり、泥で遊んだり、次々と遊びを考えていく姿を見て、子どもたちの主体性の大切さに気づくことができました。これからこの活動をもっと多くの人にも関わらいい、社会全体で子どもを育てるという意識が広がっていくと思います」と、自然体験活動の可能性について語りました。

学生たちは「森のようちえん」の活動から、保育に必要な思考力や対応力などを磨き、これからの成長を続けていきます。

(※1) 2020年4月、子ども発達学科から名称変更(予定) (※2) 2020年4月、保育専修科から名称変更(予定)

column

地域の人とつながり、学び、地域に還元していく場をつくりたい。

教育・心理学部 子ども発達学科 保育・幼児教育専修 東内 瑠里子先生

自然の中で感動的な体験をすることで、自分で考えて、行動できる子どもに育ってほしいという願いを込めて「森のようちえん」を始めました。生き生きとした子どもたちの姿から、学生たちが学ぶことはたくさんあります。今後も大学内にとどまらず、地域の人々との関わりを大切にしていきたいと考えています。

